



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和3年 12月 20日

No.12



大宮中学校 人権意見発表会&講演会



人権のつどい



第Ⅱ部 人権講演会



「人権のつどい」の第Ⅱ部は、『障がい者となってからの第二の人生』と題して、寒川進（かんがわ すすむ）先生にお話をして頂きました。講演後に感想を書きましたが、多くの気づきや学びがあったことが伝わりました。一部になりますを紹介します。（文章の一部は、編集しています）

20歳という歳で事故にあい、障害のある体となってしまったけれど、またそれで新しいことに挑戦していこうという思いが素敵だなあと思いました。事故にあって悲しくて辛いこともたくさんあって、一度は死のうとまで思ったけれど、たくさんの人の支えによって、今生きていることやその悲しさや辛さにめげずに新しい人生を送っていこうという決心が私だったらできないと思います。私だったら、その悲しさや辛さに埋まっていくと思うけれど、寒川さんは前を向いて生きていることがすごいなあと思いました。（1年生）

寒川先生の講話であった「辛いときがあった」というのは、本当に辛かっただろうし、これまでできていた当たり前が急に当たり前じゃなくなるのは、不安だろうし怖かったと思うけど、前向きに考えられたということは、とてもすごいことだと思います。寒川先生はパラリンピックに出て3位をとっているけど、それまでの積み重ねがあるんだろうなと思いました。今でも1~2時間練習をしていると聞いて、自分は自主練できていないので、明確な目標を立てて、その目標が達成できるように自主練を頑張りたいです。（1年生）

講演では、生まれつきではなく途中で足が不自由になってしまった寒川さんから、とても貴重なお話を聞きました。私は今回の講演で、人生は何があるか分からないけど、何があっても寒川さんみたいに乗り越えていけることを学びました。それに、寒川さんは20歳で足が不自由になって、死にたくなるくらい追い込まれていたのに、パラリンピックに出ていたから強い人だなと思いました。（1年生）



寒川さんは人生の半分以上を車いすで過ごしています。20歳から車いす生活がスタートして、国の代表として世界で競技をするようになるまで、私たちには理解できないほどの苦しみや痛みを経験し、乗り越えてきたんだと思います。私だったら…と考えてみようと思いましたができませんでした。きっと本当の辛さを味わった人しか分からないんだと思います。一番心に残っている話が「ポジティブでいること」です。言葉では簡単に言えても、実際にやってみるのはすごく難しいことです。でも、このことを寒川さんが口にしたことがすごく心に残っているんです。辛いことを経験してきて、それを乗り越えてきた人だから、寒川さんが言う「ポジティブでいること」はすごく心に響きました。生きていく中で常にポジティブでいることが難しくても、ふとした時にこの言葉を思い出してポジティブになればいいなと思いました。(2年生)

寒川さんは障害を負ってからも会社に勤めたり、パラリンピックに出場したりしている。私は寒川さんが「障害を負ってできたことがある」と言っており驚いた。私は障害を負ったらできなくなることがほとんどだと思っていた。でも寒川さんは障害を負ってしまったことでパラリンピックに出られたり、飛行機で貴重な体験をされたりするなど色々な体験ができたと言っていた。もちろんできなくなったことも多いけど、できたことに目を向けているところがとてもポジティブだと思った。(2年生)

寒川さんの話で、とてもすごい人だと思いました。いろんな困難を乗り越えてパラリンピックに出たりしていて、諦めないことの大切さを教わったと思います。自分もスポーツをしています。伸びる人はしっかりとした目標がある人だと言っていました。これから明確な目標を持って、何があっても諦めない人を目指したいです。(3年生)

講演では、「前向きに頑張ることの大切さ」を学びました。20歳というまだまだこれからの人生という時に事故にあってしまい、車いす生活になってしまった寒川さん。今では「よかった」と言えるくらい心の強い寒川さんはすごいと思いました。私だったらそんなことは思えないだろうし、後ろ向きな考えばかりになってしまうと思いました。

今を自分の出せる最大限の力で頑張ることが大切なのだと講演を聞いて分かりました。これからの社会は「共生社会」です。様々な人と共に生活していくことに対して、マイナス思考ではなくプラスにとらえて「自分のやれること」を見つけて頑張っていきたいと思いました。

(3年生)

